

【全難連シンポジウム 2022 のお知らせ】

目指すべき難民保護制度のかたち

ミャンマー・アフガニスタン・ウクライナ避難民への対応格差から みえる日本の難民保護の問題点

ウクライナからの避難民の受入れなどで難民保護への市民の関心が高まる一方で、国際保護を受けるべき難民等が保護されない状況が続いています。そして、根本的な問題への取組みや検討がされないままに、先の通常国会で廃案となった送還停止効の廃止を含む入管法改正案が、再度提出されようとしています。

本シンポジウムでは、ミャンマー・アフガニスタン・ウクライナの難民保護の現状を分析し、あらためて日本が目指すべき難民保護制度のかたちについて議論します。ご参加をお待ちしております。

日時： 2022 年 10 月 22 日（土） 13:30～16:00（予定）

参加方法：【オンライン参加】 Zoom ウェビナー

（数日前になりましたらシンポジウムへのアクセス情報等をお送りいたします。）

【会場参加】 ウィンクあいち（名古屋駅桜通口から徒歩 5 分）

（※先着順。お申込みの方に追って詳細をお知らせいたします。）

参加費：無料

申込方法：本シンポジウムへの参加をご希望される方は、[参加登録フォーム（ここ）](#) から 10/21(金)18 時までにお申込みください。（要事前申込み）

<プログラム（予定）>

13：30～15：00 第1部 シンポジウム

ウクライナ NPO 法人名古屋難民支援室

アフガニスタン NPO 法人難民支援協会 & 弁護士 難波満

ミャンマー 弁護士 渡邊彰悟

会場議論

15：00～16：00 第2部 弁護士等報告

恣意的拘禁（特別報告）；名古屋；西日本；福岡；など



全国難民弁護士
連絡会議

Japan Lawyers Network for Refugees